

# 公園をみる・観る



## = 絶滅危惧種について考える =

先日新聞を読んでいたら「オオタカ絶滅危惧種解除」の囲み記事が眼に止まった。最近種々の動植物が次々と絶滅危惧種に指定される中、これはまた慶事なニュースではないか。記事によると 1984 年に 300 羽～400 羽の生存数だったものが 2008 年には 9000 羽近く確認されたとある。

オオタカは公園でも冬場、カモ類をねらって木の茂みに止まっているのを見かけるが、今の時期は森林に引きこもって暮らしている。タカ目タカ科に属する中型の猛禽類で日本では古くよりタカ類の代表格と言われている。羽の色が青味がかかった灰色であることからアオタカと呼ばれていたものが変じてオオタカとなったという。狩の名手で、視力の良さと高い飛翔力、獲物への執着心の強さで狙った獲物は逃さない。その美しく勇まし気な姿形とあいまって昔から武将たちが競ってタカを飼って鷹狩りに興じた。しかしオオタカの性格はとても臆病で少しの環境の変化にも強いストレスを感じるという。食物連鎖の頂点にいるため天敵はいない。人間の森林開発が彼らの生存を脅かす唯一の天敵である。絶滅危惧種から外れたとはいえ、彼らの生活ゾーンを考慮しつつ共存できる範囲の開発を望みたい。人間の都合で絶滅危惧種に指定されたり、外されたり、なんてことはないよね。まさか……。

オオタカの天敵といえば、雌のオオタカはカラスを捕食することさえあるらしいが、カラスはオオタカの雛を捕食するそうだ。兎に角強くなければ生きて行けない世界なのだ。私も強くなろう。

(土×土)

## Kさんの、あんなとりこんなとり

絶滅危惧種と言え、この頃スズメをあまり見かけなくなったと思いませんか。昔からいつも私たちの傍にいたスズメが、環境が変わったせいで周りから姿を消しつつあるのではないかと気懸かりです。

何年前のことになりますが、ある日二階から「チュンチュン!! チュンチュン!!」と切羽詰まった鳴き声が聞こえました。開け放していたベランダのドアから入ってきた子スズメがタンスの後ろに落ちて、出られなくなっていたのです。手は届かないし、どうやって出そうかと思案しているうちに、気が付くとベランダの手すりに 10 数羽のスズメたちがずらりと並び、私に向かって「その子を返して！」と口々に鳴きたてます。「返してあげたいのは山々だけど一体どうすれば？」途方に暮れて私は一旦その場を退散し、スズメのみなさんにお任せすることに。しばらくすると静かになりましたのでそっと戻ってみますと、子スズメごと全員いなくなっていました。仲間の声援を受けて、きっと子スズメが頑張ったのでしょね。

ホッと、胸を撫で下ろしました。